

セミナー 第4回

日時 令和2年2月19日(水)

午後1時30分～3時30分

会場 鹿沼市民情報センター2階 子育て情報室

## 演題 「LGBT」って知っていますか？

講師 宇都宮大学 教育学部

准教授 良 香織さん



### プロフィール

宇都宮大学教育学部准教授、保健学博士

人権教育、性教育を研究テーマとしている。

近著として、「教育書にみる世界の性教育」2018、かもがわ出版

「性教育はどうして必要なのだろうか？」2018、大月書店 他

### △▽はじめに▽△

講師：みなさんこんにちは、良（うしとら）と言います。ちょっと変わっている名前かなと思うんですけど、関西や九州にはわりとあって方角を表してます、丑と虎なので北東かな？宇都宮大学の教育学部で教員をやっています。みなさん「LGBT」という言葉を聞いた事がある、または説明できるっていう方はいらっしゃいますか。今日はセミナーの最後に「LGBT」についてある程度説明できるようになるといいかなって思っています。

さて、私は小学校で人権教育や性教育をしております。他にも幼稚園保育園から大人まで、性の事をどういう風に教えればいいのかを教えています。そこで教材をつくったり授業を作ったりしているんですけど、今みなさんのテーブルに置いたものは、小学校1・2年生で性に関する、最初の命の始まりって言うところで使う教材です。ファイルの中にオレンジ色の紙が入っていますので手に取って光にかざしてみてください。何か見えると思うんですが、これは受精卵の大きさなんです。今ではこんなに大きくなりましたが最初は皆さんこれです。じゃあ、心臓が動き始めるのを確認できる大きさってどのくらいでしょう。ちょっと手で表してみてください。だいたい、6から7週の時期らしいんですね。今、正解を配ります（米粒）。この点だった受精卵が6～7週くらいには米粒くらいの大きさになって、心臓が動き始めることが確認できます。そして、十月十日おなかの中で過ごして出てくるわけですね。さて、最初に赤ちゃんが「生まれた」

って、聞いた時にみなさんどういう声を掛けますか？

**受講生：**おめでとう

**講師：**そう、おめでとう。次は何でしょう。

**受講生：**どっち

**講師：**どっちだよ。どっちというのは何ですかね、

**受講生：**男か女

**講師：**性別ですよ。生まれた時、おめでとうの次にだいたい性別を聞いてくる。

「どっち」というのは男か女か二つの中うちのどっちという問いですよ。日本でおぎゃーって生まれて、看護師さんや助産師さんが最初にするのは外性器の確認。おちんちん、ペニスがついていたら男の子、ついてなかったら女の子っていう風に手続きをするわけです。でも、生まれた時にどっちか判別しづらい体の状態で生まれてくるっていう人もいます。少し成長して自分の事が分かるようになると、自分の体の性別にすごく嫌だなんて違和感を持つ人達もいます。この社会では異性を好きになるのが当たり前、ある年齢になれば人を好きになるのが当たり前とされてきたわけですが、思春期になって同性を好きになったり、誰も好きにならなかつたりする人がいると明らかになってきています。こういう中で鹿沼はすごいですよね、パートナーシップ宣誓制度というのを立ち上げた。栃木県内初めての先駆的な取り組みです。全国的にも厳しい中でよく前進したなって思うんです。まだ利用している人がいないそうですが、じゃあ利用したい人がいないかというところではなくて、まだ利用できるような状態じゃないっていう事なんですよね。制度を利用したくても隠したい。そういう状況なので、私たちにいろんな学びが必要になるわけです。利用したい時に利用できるような社会を作っていかななくては行けないって思うんですよね。

皆さん、自分の中で性別ってどういう位置にあるのでしょうか。性別は自分を形作るもののひとつですよ。ただ、私たちの身近なところで、性別に関してこうあるべきっていう事がたくさんあるわけです。それによって、なんか生きづらかったり、行動が狭まったりするのって窮屈ですよ。嫌な思いをしたという人もいらっしゃるでしょうし、逆に自分が言ってしまったということもあると思うんです。それをまず確認したいので、お配りした2枚の絵を見てください。1枚目はランドセル屋さんで子供が「青が良いって」言っています。それに対してお母様でしょうかね「女の子なんだから赤が良いわよ」って言っています。2枚目は男の子が泣いていて、それに対してお父さんでしょうか、男の人が「男なんだから泣くんじゃない」って言っている。こういうやり取りに対して皆さんなら何て言いますか？ どういう風に言うかちょっと考えてみてください。

**講師：**どうですか？この子がどういう子かによって変わるかもしれない。孫とか身内だったら、みんなから浮かないように、良かれと思って「やっぱりちょっと今の社会で

はねえ、ピンクか赤が女の子の色かな」って言っちゃうかもしれないですよ。これは人と違うことをしているとたたかれるっていう学校の空気を変えないといけないと思うんです。実際学校は、性別によってこうだあだって言うのを変えていくように取り組む時代に入っている。LGBTの子どもたちも、先生もいらっしゃいますから。でもどうでしょう。身近だとやっぱり目立ってほしくないっていう考え方が出てしまう。それは私たちの内側にある差別の感情だと思うんです。こういう場面に出くわしたときに、その子が「こうしたい」というのをサポートするのは実はすごく葛藤が生まれると思うんです。自分と違う感覚な訳ですから。そこをいかに寄り添えるかが問われるわけです。これは人権問題を考えるときに基本的な事なんですけど難しい所でもあるわけです。ではもう一つのほうはどうでしょうか。男の子が泣いていて、「男の子だから泣くんじゃない」って言われている。でもなんで泣いちゃダメなんですか、泣くことと性別は関係ないのに。男は黙って背中を見せるみたいな文化というか、こうあるべきという性の考え方があるから



とも言えるわけですよ。ちなみに新聞に人生相談があるじゃないですか。あれって、実際に来るハガキのうち男性は2割弱なんですって。男性は、自分の気持ちを言葉にして伝えたり感情を出したりというのがあまり好ましくないものとしてこの社会では考えられてきた。それによって悲しいことがあってもなかなか言えないということが起きている。男性はこの社会で優遇されてはいるけど、それはそれで、感情をうまく出せないとか、先回りしていろんなことを周りの女性がやることによって生活力を奪われてきたともいえるわけですよ。人間って、性別にかかわらず感情があるし、好みも色々だし、人によって違うんですよ。そう思って、こういう場面を見たらどうでしょう。性に関してこうあるべきというのは、女の子の場合は、女の子なのに足開いちゃだめだよとか、女の子なんだから手伝いしなさいよというような行動の制限や強要という特徴があるんです。ですが男の子の場合はもうちょっと複雑で、男の子なんだから頑張んなさいという励ましだったりして余計に気づきづらいとか、励ましだからこそしんどくなってもなかなかそれが嫌だと言う思いが持ちづらいという特徴があります。

こんなの随分前の時代でしょって思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。今、私は東京の公立の中学校で男らしさ女らしさを考えようっていう授業をやっていて、授業の最初に、「男らしさ」「女らしさ」みたいなことを言われたことがありますかってアンケートを取ったんです。そうすると7割くらいが言われたことがあるって言っているん

ですよ。結構な数だと思いませんか？具体的には「女のくせにスカートはかないの？」

「女なのに少年ジャンプ読んでるの？」少年ジャンプは男の子向けの漫画ですが別に男女に関係なく読んでもいいものですよね。「男のくせにディズニー好きなの？」「男のくせにピンクが好きなんだ」「パンケーキ好きなの？男なのに」って。「好み」なので男らしさ女らしさとかって別に関係ないのよね。まだ続きます。「女なんだから上品にきなさい」。男女に関わらずあんまり下品じゃない方が良いと思うんだけどよね。「女のくせに生意気だな」「女のくせに粹がるな」「男のくせにちっちゃいね」「男のくせに泣いてるんじゃない」。性格や感情に関すること言われている。身体に関しても、男の人は体が大きい方が良い、女の人は小柄な方が良いという勝ち組ランキングの意識がすごくあって、体の成長の事を授業でやると「先生、どうすれば背が伸びますか」って、小柄な男の子からの切実な願いが毎回感想用紙に書かれています。女の子の場合は「痩せたい」です。こういう事もあります。「女のくせに女子力（ジョシリョク）ないね」って言われた。女子力って何でしょうね。男子力ってないじゃないですか。イクメンはあるけれど、イクウーメンってありませんよね。育児をするのは女性が当たり前でされているから名前がない。男の人が育児をするのはあくまで例外って思っているからイクメンという言葉が登場するわけですよ。ケアメンって知ってますか？介護している男性の事です。それってやっぱりケアしている男性はあんまり多くないって事です。今はいろんな家族の形があるので一概には言えませんが、データで言うとそういう現実があるからケアメンって言葉があるわけですよ。ちょっと脱線しますが、出産を機に会社を辞める、仕事を辞める女性ってどのくらい居ると思いますか。今はみんな働き続けるんじゃないかと思う人もいるかもしれませんが、この前内閣府がデータを出していて、二人に一人なんですよ。

**受講生：**えー。

**講師：**働き方を変えたり、パートタイマーに切り替えて正規雇用じゃなくなる人たちも入っていますけれども、二人に一人の女の人が辞めている状況なんですね。私たちのすごく身近なところでも性に関わっての生きずらさ見たいなものは残っているわけです。なんでこんな社会になっちゃったんでしょうね。話戻しますが「女なのに野球やってんの？」って言われたとか、「女なんだから手伝いやれ」って言われた。お正月、祖父母の家に親戚一同が集まった時、男の人たちはお飲んだり食べたりおしゃべりをしてる。でも女の方は台所で一生懸命腕を振っている。男の子はゲームをしたりしてただらだらしているの、その女の子もゲームをしていたら、「女なんだから手伝いやれ」って言われた。「なんでだよ」って。なんで、おっさんたちは飲んで、女ばかり働いてるんだ、みたいなことを言ったら「こういうもんなんだ」って言われたって。



おかしいよねって書いてありました。もやもやして、でも言葉がうまく見つからないからお母様に「死ね」って言ってそこから逃げた。なんかリアルでしょ。中1です。次は「男のくせに女子力高い」、これは学校で、お弁当の日っていうのが一年に一回あって弁当を持ってくるんですね。その時に両親とも忙しいから自分で作った。小学校の時の調理の技術だけでゆで卵と野菜炒めとソーセージ

かなんか入れて、ごはんも炊いて詰めたんですって。そしたら先生に「女子力高いね」って言われたって。それって「生活力」じゃない？でも「女子力」って言われてすごく恥ずかしかったって。あと「男なんだから堂々としろと言われました。」男でも当然緊張はしますよね。なのに、そういう感情を抑えることが求められているようです。こういった事を誰から言われましたかっていうと、親、祖父母、先生、親戚、友達、インターネット。皆さんは言ったことがありますか？この社会は、性別によってこうあるべきというのがまだまだ根深い。私たちは社会的に影響を受けて今度は自分からそれを発信したり、強化、もしくは内面化って言ったりもしますが、引き継いでしまう状況があると思うんです。ただ、「これは人権問題じゃないの？」っていう事がどんどん明らかになってきて、いろんな世代間の葛藤を抱えながらも、次の世代や自分が生きるときにはこうした方が人間として生きやすいんじゃないかなっていうのを、積み重ねてきていると思うんですよね。LGBTのテーマはまだいろんな葛藤や模索が続いている状態なんです。

では次です。みなさんを形作るものの特徴や特性っていうのは一つではないですよ。ここで皆さん、自分の特徴を3つ書いてみてください。なんでもいいです、出身地でもいいし、ご家族や仕事、好みでもいいです。自分の特徴を3つ上げられましたでしょうか。じゃ、その中からこれは自分を語る上で外せない特徴だっていうもの一つに○をつけてください。好み、趣味、特技、食べ物を早く食べるとか足が速いとかね。選んでいただきましたか。じゃあお隣の方とその言葉を共有してもらいたいです。例えば「私は食べるのが速いです」ならそれだけです。そのあと説明したくなると思うのですが、一切説明しないでお互い一言ずつ自己紹介してください。はい、お願いします。

…どうでしょう。これやってみるといっぱい話したくなりますよね。「私は食べるのが速いです」でもそれは自分を形作るいろんな特徴の一つだと思うんですよ。きっとこの場にふさわしい特徴をなんとなく選んで書いています。このほかにも自分がこの場で共

有したくない特徴もあるし、自分は気づいてないけど他の人は気づいているものもありますよね。またその時ごとに違ったりもするわけですよ。これはみなさんを形作るものは一つではないっていう事を考えてもらうワークです。人間は複雑で多面的な存在です。見せていない事もありますよね。なんでもオープンにしているわけじゃない。一つにくくられて生きづらさを感じたり、生きる上での選択が狭まったりするっていうのは人権侵害です。それでは、さきほど選んだ特徴がありますよね。その代表として一か月過ごしてくださいと言われてたらどうします？「早く食べる人の代表」として一か月過ごします。時には胃袋が疲れて休みたいときもあるのに、代表として一か月ってやだなって思う。想像してみてください。じゃあ、逆にその特徴を隠して一か月過ごしてくださいって言われたらどうですか？鹿沼市出身というのを隠して一か月。自己紹介しなきゃいけない時に「小山出身です」とかって嘘をつくんでしょうか。本当に大事にしなきゃいけないものをごまかすのに慣れてしまうと自分の特徴が何か見えづらくなったり、嘘が重なってくると自分のとらえ方がブレてきますよね。

今日のテーマは人権としての性ですが、人権ってどこか法律家だとか、何か困難な課題を抱えている人のものっていうイメージが強いと思うんですよね。でも人権は人間って一点だけで保障されていることです。そして人権が保障されているってどういう状態かっていうと、人間らしく生きるってこと、自分で自分の人生を選択して決めることが出来ているということです。皆さんは人権を保障されていますか？世間様が言うような生き方をしなきゃいけないと囚われて選ばなきゃいけなかった事もあるかもしれない。人は、いろんな限られた状況、与えられた環境の中で、そこに抗いながら「自分らしく生きるとは何だろう」と一生を通じて模索する存在だと思うんです。自分で自分の人生を選択して決めることを、一人一人が出来るようにするために用意するものを専門的に**権利**って言ったりします。そのためには、例えばどういう選択肢があるか知らなきゃいけない、情報や教育が保障されなきゃいけない。学習権って言ったりします。この場所もそうですよね。いろんな生き方があるという事を学ぶ権利が保障されなきゃいけない。そして自分はこう生きたいって時に受け皿が必要になる。鹿沼市のパートナーシップ宣誓制度は、多様な性を生きる人を認めサポートしましょうって制度ですよね。いろんな決定をサポートする受け皿って言うのは市役所や県の取り組みだったり、もっと専門的に言うと社会システムなんて言いますが、社会の仕組みをよりよく変えていかなきゃいけないわけですよね。私たち一人一人がこういったことに直接的や間接的に関わってきて、いろんな人のいろんな葛藤や困難が長い歴史の中で積み重なってきて、一歩進んで二歩下がるみたいなことを繰り返しながら人権は少しずつ拡大、前進してきたんですね。

今、BSのNHKで「おしん」を放送していますがご覧になっていますか。毎回見るたびに橋田寿賀子さんの脚本は朝からイラッとしますよね。でも当時はそういう時代。

100年前の女性たちは選挙権なんかなくて、働いただけ働いても認めてもらえない。次の世代ともつながれず、前の世代からも分断されている、そういう女性の生き様です。皆さんの親世代やその親世代までさかのぼってちょっと考えてみてください。学歴はどうでしょうか。自転車に乗れましたか？仕事をしていましたか？私の祖母は107歳で4年前に亡くなりましたが、明治の終わりの生まれで、小学校1年くらいから二十歳くらいまで紡績工場で働き詰めに働いて二十歳にそのまま結婚したわけです。なので文字が書けなかったし、自転車に乗れなかった。女の人が自転車に乗ったら子供が産めなくなると思っていたようです。小学校にも行けなかったから、祖母世代は子どもをとにかく高等教育に出したいって思いは強くて、一生懸命やりすぎて母親世代とは確執が生まれている、更に母親世代は私たち世代に対してより期待するわけです。身近であればあるほど結婚や子育て、学歴、仕事、全てにおいてこうした方がもっと良いいって言いたいって気持ちが出てくるんですよね。でも血が繋がっていたとしても違う人間として見られるかどうか、「この子が自身で人生を選択して決めるにあたって自分はどのような声かけを大人としてできるか」って考えるのが、人権について実践するっていう事だと思うんですよね。これがなかなか難しいんです。身近であればあるほど。そういうことをまずは押さえておきたいなと思うんです。

さて、では「LGBT」ってなんだというところです。LGBTって4つの文字が並べられていますが、「LGBTの人」っていうのは居ないのです。性に関わる少数派とされている人達を表す英語だと思ってください。「LGB」と「T」っていうのはだいぶ違います。LGBは誰を好きかっていう性的指向について、この社会で少数派とされてきた人たちの頭文字をとっています。

詳しく言うと、LGBの

**L**はレズビアン＝女性で女性を好きな人

**G**はゲイ＝男性で男性を好きな人、(ホモセクシュアルって言うこともあります)

**B**はバイセクシュアル＝性に関わらず人を好きになる人、同性を好きになることもあれば異性を好きになることもある。

この他にもA(えー)セクシュアル＝誰も好きにならない人。恋愛感情がどうしても誰にも向かないって人もいます。

**T**は何かっていうと、自分の体の性をどう思うかっていうところです。性自認って言ったりします。自分の体の性を受け入れて生きる人が数としては多いわけですが、どうしても体の性に違和感がある人の事をトランスジェンダーと言ってその頭文字がTなんです。私の友人で違和感を持っている人がいますが、自分はいつも着ぐるみを着ているような気持ちで生きてきたと言っていました。そしてすごく違和感が強くなり手術をして今は手術をすれば日本の場合には籍も変えられるので、戸籍も名前も変えて、パートナーと結婚どうしようかなって考えている。そういう人もいます。なので、LGBTってひ

とくくりにはできない、「LGBTの人」ではないんですね。それぞれです。例えばトランスジェンダーもすごく強く違和感がある人もいれば、違和感はそんなにないけど自分がこうしたいという性別を生きたいという人もいます。手術まではしなくていいから服装やしぐさなんかを自分の心の性に合わせてそれで心が安定して私らしいって思える人もいるわけですね。すごく幅があるし、社会に対してこうしてほしいっていうニーズも一人一人全く違います。あとはオープンにしたい人もいれば、したくない人もいます。単純に女の子っぽくない女の子や男の子っぽくない男の子を見た時に、あの子トランスジェンダーなんじゃない？って決めつける人がいるんですが、服装がボーイッシュだからと言ってトランスジェンダーとは限らないし、決めたくない人もいます。また、違和感があってもトランスジェンダーとしてそれを受け入れているわけではない人もいます。だから勝手に決めつけるのは人権問題です。



私たちを作る特徴とか属性とかはたくさんあるわけですが、その中の一つがゲイであることとか、トランスジェンダーである訳です。なので、ゲイであることはその人の生きる上での一つの特徴に過ぎない。そしてそ

の特徴というのは自分の力になることもある。専門用語ではストレングスって言います。ストレングスってというのは、その人が持っているたくさんの良い所だと思ってください。

もちろん自分がゲイですって言いたって時には言えるような場所を作るって言うのが大事です。でも言わないって言うのもその人の選択肢なので言わなくても良い訳です。そんな大事な事をいろんな人に言わなくても良いですよ。声を上げて言えない人のために戦いたって言う人もいるでしょうし、いろんな人がいるって事です。決めたくない人もいるし、揺らぐこともあります。私の友人ですが、女性の方で男性が好きで恋愛関係になって子どもが出来て、でもなんか違うな一って言うのがずっとあって、25歳を超えてからあれ？自分の性って何だろうって思った時にバイセクシュアル、さっき出てきましたね、LGBTのBってことに気づいた。今は夫と別れて女性のパートナーと子育てをしています。一生を通じて揺らぐこともあるって言う事も知っておくといいかもしれません。じゃここで、休憩にしたいと思います。

—休憩—

**講師：**「LGBT」についてなんとなくつかめましたか？「LGBT」とは、誰を好きかっていう事と、自分の性をどう思うかっていう事に関して、この社会で少数派、生きづらさを抱えることが多い人達を一つの用語で表したものだってことはお分かりになっ



たかなと思います。この表し方って、「LGBT」のほかに「性的マイノリティ」や「性的少数者」などいろんな言い方があります。テレビなんかではひとくくりに「オネエ」と侮蔑的に言われたり、もっと侮蔑的に「オカマ」と言われていじめを受けた時代も長いわけですね。性に関してどういう言葉を使うかは、その人がこのテーマにどういう知識があってどういう風に受け止めているかっていう事の現れですね。だからどういう言葉を使って話すか、人権を踏まえてその言葉を使っているか、成熟した大人は敏感に考えられないといけないわけですね。

私たちの身近には「性はこうあるべき」というのがありますが、それをまず問い直すことが、LGBTの取り組みをする上で必要な気がします。「体と心の性は一致する」「異性を好きになるのが普通」と言うのがこの社会では当たり前とされてきたと思うんですが、そうすると同性を好きになる自分とか、性別にかかわらず人を好きになる自分、心と体に不一致感があつたり揺らいだりする自分はおかしいんじゃないかって思って、生きづらさにつながる。だから性に関わるこうあるべきを問い直していかなきゃいけないんです。

ただこれがなかなか難しい、当事者が頑張ればいいという話ではなくて、私たちが身近なところでこうあるべきってところから解放されなきゃいけないわけですね。例えば身近に独身の男の子が居ると、「いい女の子を紹介するよ」とか、「結婚まだなの？」とか言ってしまう。これはある一定の年齢になれば異性を好きになるのが当たり前って前提で話しているわけですよ。その人がもしかしたらゲイかもしれないし、決めたくないって人かもしれない、性は身近にあつて、私たちが生まれてから死ぬまで関わるものなので、いろんなやり取りの中で気づいたら人権侵害の加害者になっている事があるわけですね。善意でね。そういう中でいろんな国でLGBTのテーマって言うのは人権問題だと認識されています。学校で隠さなくちゃいけなくなったり、学校行けなくなっちゃったり、いじめられちゃったり、進路が決められなくなったりって事が起きているわけですね。すでに学校では取り組みが始まっていて、栃木県も6年前というかなり早い段階で、教育委員会が教員向けのリーフレットを作っています。東京より早かったんですよ。学校教育ではこの5年くらい、人権教育の研修で多様な性のテーマの研修ってすごくたくさん開かれていて、いろんな講演なんかも開かれていますよね。県内の教育の分野は結構頑張ろうって感じで進んでいます。

そういう中で、いろんなところがいろんな取り組みをされていて、これから皆さんにお見せするのはオーストラリアのANZっていう大手の昔からある銀行のCMです。ちょっと皆さんに見てもらおうかなって思っています。

—映像を流す—

**講師：**足利銀行なんかも、こういうCM作ってほしいですね。オーストラリアはマルディグラと言って一年に一回大きなLGBTの人たちのプライドパレードがあるんで



すね。そのキャンペーンと合わせてこういうCMを作ったようです。前半は周りの目が気になって手を繋げない同性カップルの映像が出てきて、そのあと「手をつなぎましょう、つなぎたいときに」という英語が出てきて、勇気をもって手をつなぎ合っているレズビアンカップルやゲイカップルが登場して終わるっていう、そういうCMでした。こういうCMもひとつなんですけど、いろんな形でLGBTの人たちが

ドラマなんかでも描かれるようになりましたよね。私が高校の時なんかだと、LGBTの人たちが登場する映画って、たいてい同性愛者は犯人で、最後は首くくったり、崖から車で落ちて死んじゃったりとかがほとんどだったんですよ。でも今、ようやくハリウッドでも日本の映画でも際物扱いのっていうのはまだ若干残ってるけれども、いわゆる普通の人、人間としての性として描かれる映画やドラマが少しずつ増えてきたなと思うんです。登場したら殺人犯、そういう書き方ばかりだと自分がこのあとどうなるのか、どういう風に大人になるのか、どういうお仕事を誰と関係を作るのかっていうようなロールモデルっていうんですけど、それが無い。ロールモデルの不在っていうのは結構深刻な問題なんです。今少しずつドラマなんかでも「きのうなに食べた？」ってご存じですか？ほんとに何気ない日常を描いたものですが、こういうのが増えてきているかなと思っています。

さっき、おぎゃーって生まれた時に、体の性別がどっちかわからない人もいますって話をしました。これはLGBTの中には入ってないです。LGBTI（エルジービーティアイ）って言い方をすることがあります。Iはインターセックスの頭文字です。生まれた時に体の性別がはっきりと分別されないで生まれてくる子どもたちが2000人に一人くらいいて、インターセックスと前は言われていました。今は、DSD（Disorder of Sex Development）と言い、診断名として性分化疾患って言うんですけど、実は体の性別もいろんな形で生まれてくる人もいます。ただ、その人達は自分でこう生きたいって決めてからその体で生まれた訳ではないですよ。だから、自分たちを性が多様だという根拠にしてほしくないって言う人もいますので当事者も色々なんですよね。これは母子健康手帳ですが、出生時の子どもの状態という所があって、性別欄に男、女、不明ってあります。これは、国際基準で人権団体が動いて、生まれた時の性別を問う場合は、インターセックスの子どもに限定して不明欄につけ、その子がどう生きたいかが決まった時に手続きを踏むようになっていって、日本の厚労省がそれを守って、母子健康手帳もこういう記述がどの県でもあります。

ここで皆さんにご紹介したいのは、宇都宮大学の「にじみや」ってサークルです。LGBTに関して勉強したいって言う当事者もいますし、当事者でなくてもこのテーマを勉強したいとか、知りたいとかつながりたいという人達が集まって学生サークルが出来ています。居場所作りっていうのを大事にしています。

この「にじみや」の人たちが、小中高を振り返ってどういうことをしてほしかったか話をしたんですね。そうしたらこういう意見が出てきました。信頼していた先生にカミングアウト（打ち明けた）したら「気の迷いだよ」と言われたのがショックだった。結構多いんですね。母親に自分はレズビアンだって打ち明けたら「あー、そういう時期ってあるものよ。そのうち普通に戻るから」って言われてもう言えなくなった。母親との関係がギクシャクして家を出たとか。あとは「テレビを見ているときなんとなく話題にしたら父に否定された、母もそういうのは気持ち悪いって言った。両親には自分の事は言えない。」実は当事者で親にだけは言えないって人結構います。

あとは学校の図書室に性的マイノリティに関する本があったらもっと悩まずに済んだのという意見ですね。私の友人の40代のゲイの人は、学生時代に自分が何なのかわかんなくて図書館に行って広辞苑で調べたんですって、そうしたら同性愛ってところに、「変態性欲」って書いてあった。同性愛は今は人権課題ですが、19



92年まで学校の生徒指導の手引きで「性的な倒錯型性非行」となっていて、指導の対象だったんです。そういう時代ですから、広辞苑もそういう風を書いてあった。ガーンってくるわけですよ。震える手で自分の事を調べたら「変態」って書いてあったら。ドラマを見ても崖からだれか殺して自殺するとか、そういう人しか出てこない自分の将来が見えない、将来が見えないってことは進路をどうしようとか、そこにつながる勉強をどうしようとか考えられなかったって。

後は表現できない時期もある。自分の性が良くわからなかったり、言葉にできない、表現できない子っています。そういう時に、あなたってトランスジェンダーなんじゃないって決めつけるんじゃないかってそういう揺らいでるあなたもいいんだよって大人が思えるかどうか。LGBTに詳しくなくても、人間っていうのは複雑で多面的で揺らぐし、その中に性も関わってくるって言う風につかめることが出来れば、そんなに専門性が無くても寄り添うことは出来ると思うんですね。それから学校で居心地悪かったって

う事が結構あります。学校と家庭をつなぐ何かコミュニティ、居場所があれば違った。自分らしくいられる場所が、飲み屋とかゲイバーとか、ゲイコミュニティではなくて、何か公的な昼間集まれる場所って言うのがあればよかったのに。栃木県にはあるんですよ。エスベックってご存じですかね。トランスジェンダーの子どもを持つ親が、このLGBTの事を考えましようって集まった保護者の会です。すごく緩やかな居場所になっているみたいで、学校の先生も来ることがありますし、もちろん当事者の子どもが遊びに来るとか、そういったことが出来るようなコミュニティです。すごい事です。全国的にそういう緩やかな所ってなかなか無いんですよ。それが栃木にはある、もし興味があるならエスベックの人も講演活動していますから、いろんな話が聞けるとおもいます。

最後にトランスジェンダーの当事者のお手紙を紹介しようかなと思います。この方は女の人として体は生まれましたが、自分は男だって強く思っていて、すごく生きづらい状況が長く続いたんだけど、少しずつ回復してきています。いろんな人に話をしたいと思うようになったけど、話す場がないので相談に来られて。いきなり人の前で自分の性のような大事なことを話すと実はきついじゃないですか。なので、ひとまず手紙書いてみたらって言ったんですよ、そしたら手紙を書いて渡してくださいました。この方とお父さまのお手紙と両方紹介しますね。

「僕はこの世に体は女性として生まれ。男性は男性らしく、女性は女性らしくと教えられて育ちました。でも僕は女性らしくはなりません。なぜなら僕の心は物心ついた時から男だったからです。小学校の時には赤いランドセルを背負うのが苦痛で仕方ありませんでした。中学生の時にはスカートの制服を着るのが嫌で嫌で仕方ありませんでした。心は男なのに、真逆の性別の制服を着なきゃいけないなんて、拷問だとも思いました。でも、もっと嫌だったのは生理でした。生理が来た時、家族は喜んでおめでとうと言いました。でも僕は絶望しました。自分の心とは裏腹に体はどんどん女性らしくなっていくし、大人になればなるほど、周りの女の子扱いは死ぬほどいやでした。言葉使いが男っぽくなると女性なんだからと言われたり、女性なんだから料理が出来ないと言われたりすごく反発しましたし、悔しくなりました。自分の心が男性だからというのももちろんそうですが、それ以前にどうして性別で判断するのか僕にはわからなかったのです。学校の家庭科や保険の授業でも「いつか結婚して子供を産んで幸せな家庭を作るんだよ」と先生から言われて生きる意味が分からなくなりました。何度も死のうと思いましたが、そのたびに唯一好きだった音楽の存在に助けられ多くの勇気もらい、死なずに自分のこの個性と向き合ってカミングアウトしよう決めました。自分の心は物心ついたときから男であり、体も男になりたいと親にカミングアウトしました。親は受け入れてくれて初めて本当の自分を認められた気がして本当にうれしかったです。でも世間は厳しいものでした。高校受験の時にはテストすら受けさせてもらえず、性同一性障害の人はちょっと受け入れられません（トランスジェンダーの疾患名を性同一性障



害と当時言っていました。)と言われてしまう高校がほとんどだったし、ホルモン注射を打つ前までは就職活動でも男として受け入れてもらえず、女性として働いていました。でもそれもストレスになり働けなくなってしまいました。今はホルモン注射のおかげで外見も男らしくなり受け入れてくれる職場も増えましたが、今に至るまでが本当につらかった

です。ですが、この経験があったからこそ僕には夢が出来ました。それはどんな人でも受け入れてくれるような学校、社会を作ることです。どんな性であろうと自分が自分らしくいられる学校、社会を作りたいです。体とは違う性の心でも、同性を愛する人であっても幸せになれる世の中にしたいです。そのために何が出来るかと考えていた時に自分の事を書いてみないかとお話をいただきました。自分の過去を振り返ることはつらい作業でしたがこの文を通して、同じように悩んでいる人達の力になればと思いましたし、今、僕たちの周りにある当たり前を考え直すきっかけになればと思い書かせていただきました。これから自分でも同じように悩んでいる人たちの力になれるように頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。」

栃木県内に暮らす20代の方が書いてくださいました。最初は自分の生きづらさって言うところでいらしたんだけど、いろいろ勉強したりいろんなつながりが出来る中で、自分の生きづらさだけじゃなくて、LGBも含めた性の当たり前を問い直していきたいって言う風になってきたんですね。やっぱり学ぶことの力ってすごいなって、こういう手紙を見ると思います。ただ、親御さんはなかなかすんなりと受け入れられないわけですね。お父様からのお手紙です。

「2・3歳の頃、この子は男の子が好むようなおもちゃや洋服が好きなんだなと思ってました。しかしあるとき、金八先生のドラマを見て、もしかしたら性同一性障害なのでは?と思うようになりました。小学生の高学年に入ってから登校拒否になりました。その理由もわからず怒って何とかしようと思いましたがダメでした。そしてある日自分の心の性と体の性が違うと涙ながらに話し、死にたいとも言い出しました。夜中、私が寝ていると枕のそばに立って「僕、男だよ。声も男だよ。」と言って、そうだよと答えると安心して眠りました。死んだらいけないと思い包丁を何度も隠し、親として絶対に否定してはいけないとそう思いました。親としては幸せな結婚をし、幸せな家庭を築いてほしいと願い、なんとか直そうと心の中で思いながらもんもんと過ごしました。彼の

疑問はいつも自分はどのように生まれたのか。希望がない、死にたいの繰り返しでした。そのことを聞いたたびどれほど心が痛んだでしょうか。彼のせいではない、誰のせいでもない。私は彼が苦しんでいる体験は必ず同じ苦しみを背負っている人の役に立つからそのためにこのような人生を送っていると言いました。ホルモン注射を打つことには親として相当葛藤がありました。それで心が解放されるならと許可しました。体の手術はしたいとは思っているようですが、親に申し訳ないという気持ちがあり迷っているようです。私はこれからの人生、彼の良き理解者となり幸せな人生が少しでも多く送れるようサポートしていきたいと思います。最後にエスベックに出会えた事は大きな助けとなり、親身になって接して下さっていることに心より感謝いたします。」

ご覧になってどうでしたでしょうか。この社会では性に関わって、これが当たり前という中で生きづらい思いをしている人がまだまだたくさん居るわけです。その中で、鹿沼市は制度として具体的に進めたって言うのはすごい事です。これが実際利用できるようにこういう学習会なんか開いたりしていく必要があるかなと思います。都内のある大学で性に関わる授業をしたときに、鹿沼市の制度の事もちょっと紹介したんですよね。そしたら、鹿沼市出身の学生がいて、「実家に帰るのはやめようと思っていたけどやっぱり帰ろうかな。こういう取り組みが出来る市だって言う事が誇らしく思いました」って書いていたので、やっぱりすごくポジティブなメッセージをいろんな形で発信する事になっています。そして国際レベルで評価できる制度だと思うので、すごいことだなあと思うんです。誇らしく思っていると思います。ただ、まだまだなところもあって、日本はジェンダーギャップ指数また下がりましたよね。G7の中では最下位で先進国では異例の低さです。男女差別が根深く残っているのは日本と韓国ぐらいです。でも韓国は女性の民間団体がすごく強くて、今の政権になってから特に制度化が前進してます。だから日本はおいてけぼり状態にある。あと深刻なのは人権軽視の政治家の発言ですね。「LGBTばかりになったら国は潰れる」って言っちゃたりとかね。潰れることはないですよ、他の国も全然潰れてないですよ。あと、「LGBTは生産性がない」。生産性がないと人間は価値がないっていうとらえ方って優性思想なんですよ。障害者は価値がないって。この発言に対して政治家の中ではよく言ってくれたっていう人もいます。ただ希望は、こういう発言が出た時におかしいって言う人が増えたことです。だから少しずつ変わっていくといいなと思います。

日本の一億総活躍プランなんかでは多様な性を入れようと言っている。ただよく見ると、日本の女性活躍のために海外から女性を連れてきて劣悪な環境で家事労働を担わせる図式を作ろうとしている。だから人権全体で見た時に日本ってまだまだほんとに後進国なんですよ。それでも100年前の選挙権さえなかった時代からすると、少しずつ前進してきている。だからLGBTや人権に関わる模索や葛藤は確実に前進につながってるんだなって言うふうに希望を持ちたいわけなんですよ。

戻りますが、みなさんは人間らしく生きることを選択できてきましたか。難しいこともあったかもしれないですが、これからの人生において何かを選択するとき、「こうあるべき」という影響を受けている自分に敏感になってほしい。社会には競争原理、こうした方が勝ちでこれが負けみたいなのがあるじゃないですか。それっていろんな場所にありますよね。学歴、子どもを持つ持たない、結婚の形、こういった生き方の形の競争みたいなのを変えていかなきゃいけないんじゃないかなって思うんです。LGBTのテーマって言うのは人権に関わることだから、人権に関わる他のいろんな事ともつながっています。だから人権の事って学ぶと面白いですよ。いろんな人権課題や自分の人権を考えるっていうきっかけになりますから。あちこち行きましたが、長時間にわたってありがとうございました。

<<アンケートより>>

- ・男女差別の強い時代に生きてきた人間として、今日の講義は格別の物でした。これからも自分を大切に他人を思いやる心を持って生きていきたい。
- ・多様性について改めて色々考える機会をいただきました。トランスジェンダーの方の手紙は心に強く響きました。
- ・70代の私にはまだ受け入れるのが難しいです。
- ・先進国といいながら、遅れている男女格差をなくす一員としてやっていけたらと思います。

